

# for FUN

[http://funhp.web  
fc2.com](http://funhp.web.fc2.com)

取材・企画・編集・発刊 2012  
企業取材サークル FUN 108 10月号

## 世界を股にかける 貿易業特集

今月の**企業取材**

株式会社協和通商  
不二貿易株式会社  
福水商事株式会社貿易部  
株式会社イックス  
住友商事九州株式会社  
太平洋貿易株式会社  
株式会社川口スチール工業  
サンキュードラッグ株式会社  
産経新聞西部本部  
株式会社デリス  
日之出海運株式会社  
株式会社湊工業

# 私たちの暮らしを支える「海運業」

日之出海運株式会社  
代表取締役社長 清水満雄さん



取材日 平成24年8月31日(金)  
取材メンバー 福岡大学工学部電子情報工学科4年 大久保泰佑  
西南学院大学経済学部国際経済学科4年 大津太郎  
西南学院大学人間科学部社会福祉学科4年 山口皇博  
九州大学法学部2年 中野裕太

昭和44年1月19日生まれ43才  
福岡市東区名島出身 博多祇園山笠 東流 所属  
福岡大学附属大濠高校 卒業  
日本大学法学部政治経済学科 卒業  
平成3年 日本鉱業(現JXグループ)入社  
平成10年 ジャパンエナジー(現JXグループ)退職  
平成10年 日之出海運入社  
平成21年 同代表取締役社長 就任

## 海運業のやりがい

長さ百五メートル、積量六千キロリットルの大型タンカーと呼ばれる船舶を所有している日之出海運株式会社。その大きな船舶を用い、国内の製油所から油槽所へと物流輸送を行っているのだが、なんとこの船舶を動かしているのはわずか十名の船員であり、彼らだけで気象・海象の観測や船の操縦、機器のメンテナンスや料理の仕事を担当している。

そんな彼らのように現場で働く仕事と経営者として組織の経営に責任を持ち、指揮を執る清水さんのお仕事、一見してみると全く内容が異なる様だが、共通したやりがいがあると言う。

「それは生活において必要不可欠な石油というエネルギー源を運ぶことで、社会貢献につながっていること、大きな仕事を引き受けているのだと実感できることです。例えば、石油リットル当たりの金額が百五十円だとします。すると、この船が一回で運べる石油の量というのは六千キロリットルなので、金額に換算する

私たちの暮らしに欠かせない自動車などのエネルギー源である石油。その石油物流をメインとした内航海運業、船舶代理店業を事業としてエネルギーの安定供給を行い、私たちの生活を支えているのが日之出海運株式会社である。その代表取締役社長の清水さんにお話をうかがった。

と九億円になるんです。それだけ大きな役割のお仕事をさせて頂いていること、社会に貢献できていることは本当に大きなやりがいです」

このお話から海運業ならではのやりがい、そしてその責任や社会への貢献度の大きさを非常に感じたのだが、これだけの大きな役割と責任を負った仕事をする上で、特に何が大切となってくるのだろうか。

## 安全第一であること

「皆さんご存知かもしれませんが、海での仕事というのは非常に多くの面でリスクを伴います。船が座礁してしまえば大きな損害となり、石油が漏れれば環境汚染にもつながります。最悪の場合だと船員は命を落としかねません。だからこそ大事になっ

てくるのが安全第一、そしてその為にきちんとコミュニケーションをとることなんです。船員間で意思疎通を図ることはもちろん、経営者である清水さんが自ら声を掛け、きちんと意思疎通を図ることで、自分の担っている仕事の大きさを再認識させたり、細かな点に配慮させたりする。そうすることで人為的なミスを失くす事ができ、安全を守ることに繋がるといいます。

また、船員のお仕事というのは約三ヶ月間乗船し、一ヶ月間休暇という特殊な生活スタイルである為、非常に会う機会が限られている。だからこそ、一回一回の会える機会を清水さんは大事にしているのだと語る。

学生へのメッセージ  
最後に、清水さんから学生へのメッセージを頂いた。

「今ある時間を濃密に過ごし、仲間を大事にすることですね。高校時代にバスケットボール部で必死に練習をした経験から、あれほどきついことはもうないと感じ、今少々のきついことに直面しても頑張っていますし、仲間の存在があったからこそ頑張れるということも多いです。だからその二点を大事にして頂きたいですね」

今を全力で生きることや仲間を大事にすること、このことは学生時代だからこそ学ぶことが出来、社会人となっても絶対に活かすことが出来る事柄の一つだと清水さんの姿から感じた。

今回の取材では、普段なかなか意識することのない物流に目を向け、何気なく私達の身の回りにあり、使っているモノの一つ一つの背景に、危険と隣り合わせの中、私たちの元までモノを運んでくれている人々の苦勞や想いがあることを強く実感した。

当たり前に存在するものが実は当たり前ではないのだということに気付かされた取材となった。

(文責・大久保泰佑)

〒812-0022  
福岡県福岡市博多区神屋町  
9番23号  
日之出海博多ビル